

2018年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー
参加者アンケート
参加者感想文

2018年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

石田 輝 正(連合・連帯活動局)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・CSAの活動を通じて、連合「愛のキャンパ」が有効に活用されていることとあわせて、ラオス・タイのみなさんに喜ばれていることを直接知ることができたこと。また、スタディ・ツアーを通じて、ラオス・タイの事情をより深く知ることができたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・CSAや連合に対する感謝の言葉、高校生寮の生徒や卒業生の笑顔と夢に向かって奮闘している姿。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・すべての訪問先で歓迎され、感謝の言葉が述べられたことから、CSAの活動を高く評価していると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・全体的にハードスケジュールではありましたが、朝晩のミーティングや事務局の臨機応変な対応によって、すべての訪問先で楽しく内容の濃い時間を過ごすことができた。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・現地での評価はもちろんのこと、CSAの活動を通じて連合や日本の労働組合を高く評価されているように見え、とても素晴らしい活動だと感じた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・現在の活動を継続していくことを前提に、CSAの活動をもっと広く知ってもらうことと、現地での活動強化が必要だと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・CSAの活動に参加している組織内はもちろんのこと、SNS等を通じた情宣活動に取り組みながら理解者や協力者を増やしていくことが重要だと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・支援国の協力者を増やしつつ、支援国のニーズの変化に対応しながら継続すべきと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

- ・CSAの活動に参加されている方々との交流はとても新鮮で、取り組み方法や組合員の声などを聞くことができて得るものが多かった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・参加者が主体的に役割を果たしたことはとても良かったと思います。事前の説明会、現地での朝晩のミーティング等によって、訪問前の事前準備もでき、さらに参加者が訪問先でどのように感じたのが理解でき、多くの気づきを得ることができた。

高林 希和(UAゼンセン・カネボウ労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・弊労組で積極的に取り組んでいる中古衣類カンパ活動について、実際に現場を見ることで、まだまだ必要とされていることや、省庁の方からも深く感謝されていることを知ることが出来た。また、小学校訪問を通じ、弊労組で寄贈した小学校に想いを馳せることが出来、仲間たちにもぜひ訪問してもらい、共有したいと思った。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・子どもたちの輝く笑顔、そして全力で取り組む姿勢、高校生や卒業生の将来への熱い想いに感動した。
- ・サンティパープ高校生寮における衣類引き渡し式典では、用意されていた箱が偶然にも弊労組のものであり、鳥肌が立った。
- ・タイの衣類倉庫でも弊労組の送り状を見つけることが出来たことも嬉しかった。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・心から感謝しており、そして今後も継続した活動が熱望されていることが伝わってきた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・とても良かったと思う。
- ・ホアナ村の小学校において、予定外のことだったと思うが、先生方が食事を用意してくださっており、時間の関係やその後の夕食の予定があったことから、かなり残ってしまったことが申し訳なかったと思った。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・CSAの素晴らしい活動を、ツアー参加者やその所属団体が今まで以上に情報発信をすることで、より多くの人に知ってもらい、また支援に繋がるようにしたいと感じた。

2) CSAは今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・日本への留学経験がある卒業生の一人が、今後はCSAとのパイプ役になりたいと言っていたが、ラオスでもトップクラスの卒業生は、医者や要職に就くなど将来は高額所得者になるかと思う。今後は卒業生などに個人会員になってもらい、支援をお願いするなど、国内でも自助努力をしてもらえるしくみや体制を構築して、共に活動をしていければ、よりスピードを持った支援に繋がると思う。
- ・ラオス国内での周知も進むようにCSAのホームページにラオス語・タイ語版もあると良いのではないかな。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・中古衣類でなぜスカートがダメなのか？や、男性物の衣類が不足しているなどの情報をカンパ依頼のポスターに載せるなど、毎年の取り組みではあるものの新鮮さを失わないような工夫が必要だと思う。
- ・また、日本に留学している卒業生がいたら、当事者の生の声として、連合の何かの集会の時などに報告してもらおう機会を設けたら良いと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ぜひ続けていただきたい。様々な組織から参加していただき、この活動を広げていてもらいたいと思う。
- ・実際に目で見て感じることの重要性は高いと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・基幹労連の「ご安全に」という挨拶が定番だということや、セントラル硝子労組が学校を2校建てられているのでそのお話を伺ったこと、また参加者の皆様の普段の仕事内容などを含めて色々とお話しが出来、世界が広がった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・写真担当用のカメラが1台あると、提出がスムーズになると思う。
- ・そして、事務局や写真担当が写した写真を、帰国後に頂けるということが分かっていたら、行く先々で、必要最小限のカメラでの撮影が出来、時間の節約になると思う。

米田 隆(UAゼンセン・トーカイ労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・UAゼンセンを通じ、私たち単組が今まで取り組んで来たCSA活動が、訪問先での感謝の声を聞いた事で、必要とされている活動である事を確認出来た事。
- ・中古衣料の輸送や校舎寄贈だけに限らず、支援出来る事はまだまだある事に改めて気づかされた事。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・サンディパープ高校生寮の在校生・卒業生と触れ合い、誰もが高い将来の目標を持っていた事。
- ・子供たちの満面の笑顔。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・我々に対する歓迎や、感謝の言葉からCSAの支援活動を高く評価している事を感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・車の移動を含め過密なスケジュールだったが、郊外の小学校訪問を考えると理解できる。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・校舎や寮の寄贈など物質的な支援が、支援国の人材教育を含む教育支援に密接した活動になっていると感じた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・新しい活動に取り組む事も必要だと思うが、まずは連合加盟で積極的ではない産別へ働きかけを行い、今の活動を広げる事が重要だと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・実際に中古衣料を受け取って着ている方と接する機会を設け、現地の声を聞く事。
- ・小学校訪問を1ヶ所減らしてでも、自分たちが寄付した中古衣料を現地の方に直接手渡しする機会を設ける事。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・現地を訪問した事で、より積極的に取組みを推進したいと感じた。1人でも多くこの活動への理解者を増やすためにも是非継続して頂きたい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・ツアーを通じ、業種・産別を超えた情報交換が出来た事で、連合加盟の各産別へ支援の輪を広げる活動が必要だと強く感じた。私も単組内だけでは無く、産別や地方連合会等の働く仲間が集まる場で働きかけを行う。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・メンバーそれぞれに事前に役割が決まっていた事もあり、皆が責任感を持って各自の役割を果たしていた。又互いにフォローしあっていて、非常に良いチームだった。皆さん有難うございました。

松末祥司(UAゼンセン・万代ユニオン)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・自分たちが送った中古衣類が現地の人達に喜んで頂けている事、役立っている事を直接感じる事が出来たこと。
- ・万代ユニオンが送った衣類の段ボールをラオスの衣類倉庫で直接確認できたこと。
- ・ラオス・タイの教育現場での問題点などを聞いたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・訪問させて頂いた小学校の子どもたちのキラキラした純粋な目と、紙飛行機を楽しそうに飛ばしている姿が印象に残っている。
- ・高校生寮の在校生と卒業生が勉強が出来る環境を与えてもらっていることに感謝し、将来の夢に向かって勉強していること。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・訪問先の全てで歓迎して頂き、CSAの活動に対して感謝されていると感じた。
- ・今後も継続してCSAからの支援を強く望んでいるように感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・当初の予定と現地の状況で多少はスケジュール通りに進行しない所もあったが、その都度、臨機応変に対応して頂いたと思う。
- ・小学校、高校生寮、卒寮生との交流も良かったと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・今回のスタディー・ツアーに参加させて頂き、CSAのこれまでの活動を始めて知ることが出来た。各支援活動は勿論だが、その支援に関わる各組織のメンバーを実際に現地訪問、視察するスタディー・ツアーも素晴らしい活動だと感じた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・現在の支援継続は必要だと思う。ただ、支援を継続、拡大するための問題でもある「輸送費」については考えなければならない課題だと感じた。
- ・小学校建設を進めると同時に、レベルの高い先生の教育も必要だと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・CSAの活動を多く方に知って頂く取り組みを、強化する必要があると思う。特に、法人会員と個人会員への入会強化は必要だと思う。
- ・DVDやポスター等を使い、ツアー参加者以外にもCSAの支援活動を理解して頂く事も必要だと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・「ご安全に」を合言葉に短期間ではあったが、団結力ある最高のチームだったと感じている。
- ・個人では勿論だが、単組でも出来ない取り組みだと思うので、今後も継続して欲しい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・他産別の方の話を聞ける機会があまり無いので、貴重な体験をさせて頂いた。
- ・現地視察が主な目的だったが、移動中や自由時間も、とても有意義な時間だったと感じている。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・石田団長・椎野副団長を中心にチーム全体で「臨機応変」に対応できたチームだと感じた。
- ・全員に役割があり、各自が責任感をもって行動しながらも周りでフォローし合える素晴らしいチームだった。

井上 さとみ(JAM・電算印刷労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・CSAがしている、小学校や高校生寮の建設、中古衣類を送る活動の中身が知れたこと。
- ・日本とは全く違う環境で生活している人たちとの交流で、少し世界が広がったように感じる。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・子どもたちの純粋な笑顔の美しさ。特にホアナ村での歓迎の手厚さに、CSA、並びに寄贈元であるセントラル硝子労働組合への強い感謝の気持ちを感じた。
- ・スケジュールの都合上、出された料理にほとんど手が付けられなかったことがあり、それが心残り。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・これまでの支援は非常に感謝されており、今後も続けてほしいと考えているように感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・小学校訪問時にかかる時間が行って見ないと分からないという点で、後の日程が臨機応変に変更できれば良いと思う。
- ・ラオスとタイの衣類倉庫では、JAMから送った箱を確認することができなくて残念だった。
- ・タイの中古衣類が実際に配布されているところを確認できれば、もっと良いかと思う。ラオスよりも多い量の中古衣類が本当に必要とされているのか？ バンコクの様子だけでは、分かりにくいところがあった。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・支援活動が、現地で高く評価されていることが分かった。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・20～30代の若い世代の人たちこそ、現地を見て刺激を受け、この活動を広めていく力になっていくべきではないかと感じた。
- ・もっとラオスに送る中古衣類の量を増やす必要があるのではないかと感じた。ラオスの衣類倉庫は、量だけの問題ではないと思うが、タイに比べて、計画的な配布ができていないように感じた。
- ・支援をしている「日本」という国のことを、もっと現地の人たちに知ってもらう努力も必要なのではないかと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・産別や単組の日常的な活動の中で、現地でどのように受け取られているのかも周知していくことが必要だと思う。
- ・広報の際には、文字だけでなく写真や動画を多く利用すれば、現地の空気感をもっと伝わるのではと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・可能な限り、継続すべきだと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・メンバー同士の会話などを含めて、このツアーでのすべての経験が、今後さまざまな場面で生きると思う。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・記録の際に、特に地名、役職名、お名前が聞き取れなかったもので、せめて先方担当者の方の役職とお名前は事前に読み方を確認できていたら(もしくは後から確認できるのが分かっていたら)、もっと安心できたと思う。
- ・小学校などでの交流は、昨年までの報告書からゲームの内容や進め方、反応があまり想像できずに行くまで不安だった。子供はもちろん、先生とも言葉がほとんど通じなかったもので、前年度以前の参加者の方から、そういう中でも子供たちを動かすノウハウが引き継がれば、交流がスムーズになると思う。

森本 哲平(基幹労連・三菱重工グループ労連)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・自分たち組織のボランティア活動の成果が、実際に現地で役に立っていることを感じられたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・サンティパーブ高校生寮にて、「寮が無ければ高校にも通えず狭い世界しか知ることができなかったが、CSAのおかげで広い世界を知ることができた」との生徒発言。
- ・訪問先夫々がCSAの活動に対して心から感謝していたこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・教育局やラオス赤十字社、保健省や保管倉庫管理者まで、訪問先すべての方がCSAの支援活動に対し、感謝していることを感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・赤十字社要求による意見交換会や、ホアナ村小学校での感謝の意を込めた夕食会のお誘いなど、突発のスケジュール追加もあったが、ほぼスケジュール通りの動きとなり良かった。
- ・タイで実際に衣類が支援されている地方も視察できれば良いと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・いずれの訪問先でも感謝の言葉を聞く事ができ、CSAの活動が現地の方々に夢や希望を与えていることを感じる事ができた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・まずはCSAの支援活動を理解してもらうこと。そのためにはCSAの引き続きの広報活動に加え、今回参加した我々が組織内外にて支援活動を強く推奨していくことが大切。多くの組合員に現地実情を知ってもらい支援活動の意義を理解してもらいたい。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・まずは上述の通り、CSAの引き続きの広報活動により支援活動の理解を浸透させることが必要。現在の支援団体・支援者の枠をこえた取り組みも必要と感じる。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・各種省庁や現地の学生に触れ、活動継続の必要性を感じた。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・有意義な交流を図ることができた。
- ・産別をこえた方々と議論し様々な意見を聞く事ができ、自組織との違いなどを勉強することができた。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・鈴木事務局次長が流れをつくり、団長・副団長が中心となり指揮をとり、チーム内で意見交換し、山岡事務局長がサポートするという流れ。毎回非常にスムーズに打合せが進んだと思う。

栗村 武志(基幹労連・IHI労働組合連合会)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・私たちがこれまで支援してきたものやお金がどのように使われているのか、どのような場所で使われているのかを現地で確認できたこと。また、ツアーを通じてできた他産別の組合の方々との出会いがあったことは大変良かった。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・各小学校で我々を非常に歓迎していただき、訪問した先々で「何をしてくれるのだろう」と興味津々で迎えてくれたキラキラした目をした子供たちの笑顔が非常に印象的だった。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・今まで継続的に支援し続けてきたからこそ生まれる信頼関係の上で、CSAの活動に対してこれからも非常に期待していることと非常に感謝していただいていることを肌で感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・訪問先に問題はありませんでした。ルアンプラバンで訪問したホアナ村小学校への到着時刻が遅く、校長先生はじめ、短い滞在時間となったことで折角のおもてなしを対応しきれなかった感が残ったことと、バンコクへの到着時刻が遅く、タイという国を満足に感じる事ができなかったことは心残りだった。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・学校・寮の建設をはじめ、補修して維持管理していることを通し、子供たちの将来が非常に楽しみである。もっとたくさんの方、組合にCSAの活動を知っていただきたいと感じた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・引き続き継続的に支援を活動していくべきと思う。また、同様に活動内容を広く紹介できればと思う。もっとたくさんの方々に支援を頂きたい。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・実際にスタディーツアーへ参加した方が見てきたことを紹介する場の機会をつくるなど。機関誌内や組合ニュースなどで簡単に活動内容を紹介するコーナーなどを設定してもらうなどのアナウンスをする。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・継続し続けるべきと思う。
・引き続き色々な組合に活動を知っていただき、たくさんの方に支援をしていただきたいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

・ツアー中に各労働組合における課題を知ることができたことと、取り組みや活動の情報交換ができたことは今後の組合活動の参考にさせていただきたい。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

・各役割を日々、交替で持回ったことは全員で各責任を共有でき、非常に良かったと思う。訪問した先をツアー参加者自らが楽しめる企画も立案し、ツアー自体を増々楽しめるような内容にしてみても如何でしょうか?是非、ご検討ください。

仲 政 幸(基幹労連・住重労連)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・直接現地に訪問することでCSAの活動の意義が肌で感じられ十分理解が得られました。又、各産別代表と団結し仕事をやり終えた事。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・寮生、卒寮生との交流の場で彼らの真面目で何事にも真剣にものを聞く態度、更には全員がCSAに対して感謝の気持ちでいっぱいな所。
・日本とラオスの小学校とのギャップ。又、なんととっても子供たちの笑顔が素晴らしかった。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・行先全てに於いての歓迎、CSAの支援活動が高い評価を受けていると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・非常に充実した中身の濃い一週間でした。今回、突発な訪問もありましたが、実際に訪問し確認できた事は良かったと思う。(事務局のご尽力のおかげで対応調整は大変だったと思いますが全てスムーズに運べたと思う)
・今後、スケジュールの中に子供たちの授業を見学出来たら尚、良いと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・素晴らしい活動。今後も継続し続ける事で参加者が広がりCSAの意義が伝わっていくと思う。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・まずは、継続して活動を続けて行く事。
・ラオスは内陸国故に輸送費が膨らむので輸送ルート及び輸送費の削減改善活動も視野に入れると物資の提供がさらに増えていくのではないかなと思う。
・彼らが早く自立できるような職業訓練施設の運営等ができれば良いのではないかな。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・ ツアー参加者が、直接、現地に訪問して肌で感じた事を教宣することが責務だと思った。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ 早く、ラオスが自立して行く為にも継続していかなくてはなりません。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・ 他産別との交流は視野が広がり非常に得るものがあった。
- ・ 顔合わせ、心あわせ、力合わせが出来、団結することが出来た。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・ 非常に良いメンバーに巡り合えて1週間が過ごせました。各自の役割分担等が明確で皆さんしっかり対応できていたと思う。これも事前準備のおかげだと思うので、事務局に感謝します。

西山英二(基幹労連・JFEスチール知多労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・ 私達の組合活動による支援がどのように実施されているのかを実際に見ることができて非常に勉強になった。
- ・ ファサン村小学校では我々、基幹労連の寄贈した校舎を実際に訪問でき、今後に繋げて行きたいと思った。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ 同じラオスの国の中でも民族によって話す言語が異なり、子供達が苦勞していることを知り、プレスクールの必要性を強く感じた。
- ・ サンティパープル卒寮生との交流懇親会で実際に交流できたこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ 衣類の引渡し式や各行政機関での意見交換を通じてCSAの活動が評価されていると感じた。
- ・ また、小学校の校長先生方の話を聞いていて、支援の必要性を感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・ とても充実した内容でよかったと思う。
- ・ ファサン村小学校、ナカン村小学校、ホアナ村小学校と多くの小学校を訪れることができ、小学校毎に違った雰囲気があり、他では経験できないことだと思った。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・CSAの活動が今後、もっと発展して行ってほしい。
- ・CSAの活動を各組織に幅広く浸透させることが必要だと思った。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・現在の活動を引続き継続して1校でも多くの小学校を支援して行ってほしい。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・支援組織・法人会員／個人会員の推進を図る取り組みが必要だと思う。
- ・CSAの活動をより多くの組合員に知ってもらう必要があるため、引続き本ツアーを継続してほしい。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ぜひ、継続してほしい。
- ・本ツアー参加者が増えていくことにより、各組織の中でCSAの活動が浸透して欲しいと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・他産別の方々と交流することによってお互いへの絆が強まった。
- ・このような広い産別と交流することは貴重な経験となった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・参加者全員が役割を持つことによって、全員が協力してできたと思う。

椎野 幸作(基幹労連)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・現地の貧しい生活の実態とか、詳しく知ることができたわけではないが、日本にいて、テレビや雑誌等で見ただけではわからない、直接、現地の子供たちや先生、村人たちと触れ合っただけで初めて、実に多くのことを感じる事ができたこと

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・学校に行ける、勉強ができる喜びを、子供たちの瞳が素直に表していたこと。
- ・林修の言う、勉強は贅沢を実感した。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・最上級の感謝と継続への強い期待

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・連絡の取りにくい訪問先なので、臨機応変、現場合わせは避けられないとおもうので、スケジュールにもう少し余裕がほしい。
- ・ホアナ村での感謝の思いを十分に受け止めきれなかったのが残念。
- ・省庁関係は報告書で活動内容について把握することができるので、現地優先で計画してもらいたい。タイの訪問はスケジュール上難しければ、なくてもいいと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・組合員の善意が、直接支援を必要とする人たちの手に渡るまでには、輸送の問題だったり、いろいろな課題があることがわかった。
- ・これからも様々な困難な状況もあると思うが、ぜひ継続していただけたらと思う。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・支援の輪を広げる活動
- ・独自の輸送方法を確立し、輸送にかかわる無駄を削減
- ・現地の声を支援者に届ける活動
- ・現地の自立を促す活動（支援に頼りきりではなく、産業の育成や農業の効率化など）

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・連合・産別組織の中にCSAの枝組織を作って、活動が運動として、全ての産別の組織の末端まで定着するようにする。というのはどうか？

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・CSAの活動は、現地の期待も絶大なので、やめるわけにはいかないと思うが、現地の経済成長によるコスト増も大きいので、数年後には運営が難しくなると思う。
- ・そうならないように、今のうちから対策は検討しておいた方がいいと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・素晴らしい仲間たちと出会えて、とても幸せだった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・多少めんどくさい感じはあったが、全員にお客さんではないという緊張感を持たせる意味では、よかったと思う。

田所伸吾(JEC連合・セントラル硝子労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・現地を訪問することによって、CSAの活動をより深く理解することが出来たこと。
- ・他の組織の方々と多岐に渡って意見交換が出来たこと。
- ・ラオス、タイという国の文化に直に触れることが出来たこと。
- ・セントラル硝子労組が寄贈した小学校の補修状況を、自分の目で確かめることが出来たこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・また決して恵まれているとは言えない環境ながらも、相手を気遣う精神に溢れており、日本人に似た国民性であると感じた。また、子供たちみんなが希望に満ち溢れた笑顔であったのがとても印象的で、逆にこちらが元気をもらった。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どの訪問先でも盛大なもてなしをしていただいたことから、CSAの支援に対して非常に感謝の気持ちを持っていることが感じ取れた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・限られた日程の中に多くの訪問先をつめこんだ印象があったが、その分多くの知識が得られたと感じたので、結果的に良かったと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・小学校を寄贈する、衣類を送るなど、ラオスが求めているとても重要な取り組みをしていることが素晴らしいと感じ、何よりも長年に渡って継続していることに対して感銘を受けた。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・現地はまだまだ救援衣類が不足しているとのことだが、輸送コストがネックとなり、今以上の支援が困難とのこと。ラオス政府や日本大使館等と連携を取って、輸送コストを抑えた仕組みづくりに取り組む必要があると感じた。
- ・小学校もまだまだ足りないと感じた。国際社会貢献を考えている企業、労働組合などが存在すると思うので、支援を大々的にアピール（宣伝）することも必要ではないかと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・前述と重複する部分があるが、幅広い情報宣伝活動によって一人でも多くの人に活動を知ってもらう必要があると思う。具体的に活動を知ってもらうとより効果が大きくなると思うので、現地訪問の際の活動をDVDにして観てもらったりなど、視覚的な方法も検討頂きたいと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・ラオスというまだまだ知られていない国を訪問する活動は他にはないので、是非とも継続していただきたいと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・すべての活動が貴重な経験となった。置かれている立場や産別に関係なく、数日間にわたり共に活動をしたことは、自分にとって財産となった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・毎日役割が変わるので、求められる活動は日々変わったが、前日に打ち合わせをすることにより問題なく進行できたと思う。また、スキルの高い参加者が多いので、各人の良さを引き出すためにも、今以上の細かな指示は無い方がいいと感じた。



パターサイの前で



ナカン村小学校で

